

取材対応者 代表取締役社長 笠原 康利様

取材・執筆 群馬大学大学院理工学府物質生命理工学科  
1年 鈴木 啓輝  
群馬大学理工学部化学生物化学科  
4年 八木 俊輔

## 企業概要（事業内容、設立の経緯など）

明治 10 年（1877 年）創業織物業として着物帯を製造。今年で 140 年になる。昭和 37 年から刺繍業に移行。現在は刺繍の製造・販売、ワッペンや自社ブランドの OOO（トリプル・オウ）を手掛けている。海外の展示会や県の賞を取る。今年度の「グッドデザインぐんま」大賞を獲得。

近年では、企画開発に十分な時間をかけ、独自技術‘カサモリレース’を開発。その技術を利用した服飾付属や新たな刺繍加工を企画し、東京やパリなどの様々な見本市や展示会において発信し、国内外のデザイナーやアパレルメーカー等と一緒によりよいものづくりに日々取り組んでいる。和装から洋装まであらゆる衣料加工に取り組み、最新鋭の刺繍機とレーザーカット等のテクノロジーと熟練の職人との融合による高い技術力と高品質を保持している。



## 企業の主な目標（企業理念、経営方針、経営戦略など）

経営理念は「一人ひとりが業界 No.1 の志事を創る～常に一歩一歩高みにチャレンジ～」朝礼では、経営理念の唱和と手を 3 回叩いて、向かい合った相手に「ハッピー！」とポーズし合うハッピー体操をしている。その後班を組んで、理念について話し合いリーダーが発表をしている。また、「お客様第一主義」信頼が先、指名は後、期待に応えると選ばれるという理念を基に一人ひとりが笠盛品質を意識している。

「チャレンジをする」ことを大事にしている。成長するには、チャレンジをし続ける事が強み。海外の展示会に定期的に出展や、自社ブランドの OOO（トリプル・オウ）を手掛けている。今後の方針としては自社ブランドの拡大やヨーロッパ以外の地域にも進出を検討している。会社として 200 周年目指していきたい。



### 役員の声（インタビューのまとめ）

笠原社長が、「ヨーロッパの展示会に出展をし続けることによって、信頼を獲得し世界的ブランドからの契約の話があった。信頼を得ながらお客様が増えていくこと。仕事を一生懸命・誠実にやればかえってくる。人生訓の一つになっている」とお話をされていたのが印象的だった。「信頼」を大事にされているのだと感じた。

展示会等でお客様と直接お会いすることで、感謝のメッセージや笠盛のファンになってもらえていることが実感できるのがやりがいに繋がっているとのこと。



### 学生から見た魅力（職場環境など）

世界的な有名ブランド等を取引されているお話を聞き、大変驚き、すごいと思った。会社の取り組みの一つで「サンクスカード」という制度があり、相手の良いところを褒め、カードに記入する。集計し、四半期のMVPや年間チャンピオンを決定されているとお話を聞き、面白いと感じたと同時にとてもいい取り組みだと感じた。社内の見学の際も和やかな雰囲気から社員同士の仲の良さが伝わってきた。

### 学生へのメッセージ

学生の間は、失敗をおそれず何事にもチャレンジしてほしい！！失敗から貴重な経験を得られる。若いうちに色々な人会遇到話を聞き、色々な場所に赴き、人と出会い知見を広げることが大切です。

### 取材訪問の全体をとおしての感想

私は民間企業の社長の方とお話しするのは初めてでとても緊張しましたが、貴重なお話が聞くことができ、とても楽しい有意義な時間を過ごさせていただきました。  
桐生は大学のキャンパスの関係で4年住んだ街ですが、世界に通用する会社が身近にあるという新たな発見することが出来ました。笠原社長からお話しの中で、一生懸命・誠実に何事も取り組めばかえってくるというお言葉を肝に銘じて、これから頑張っていきたいと思います。